



特許庁長官
宗像 直子

ただいまご紹介いただきました、特許庁長官を拝命いたしました宗像でございます。本日はお招きいただき、誠にありがとうございます。伝統ある特許懇の場でご挨拶をさせていただくのは大変光栄でございます。

まずは長年知財行政に貢献されていらした諸先輩方に心から敬意を表しますとともに、庁内で日々業務に精励されている会員の皆様に対し、この場を借りて御礼申し上げます。

本日は特許庁の審査官、審判官をはじめ、多くの諸先輩方、そして裁判官の方々、審議会委員の先生方、関係省庁、関係団体の皆様など、日本の特許制度を支えていただいている方々に数多くご出席いた

だいております。この特許懇の懇親会がこのように盛大に開かれますことを、まずは心からお祝い申し上げます。

今、非常に市場や技術がどんどん変わって、企業の知財戦略もどんどん変わり、高度化、グローバル化しています。そこで特許庁は3つの取り組みを行って参ります。

1つ目は、第4次産業革命への対応でございます。IoTによって、あらゆるものがインターネットに繋がり、利用できるデータが大きく増えます。そうしたデータやAIなどの分析の技術、さらにはデータを活用したビジネスモデルなど、全てが重要な知的資産として社会にイノベーションをもたらすということが期待されます。今年4月に「第4次産業革命を視野に入れた知財システムのあり方に関する検討会」の報告書が出ました。これを踏まえて、権利の取得と利用の予見性を高める取り組みを進めて参りたいと考えております。

2つ目は、グローバル化への対応でございます。できるだけ速く、そして効率的に海外で権利化をしたい、これが企業の皆様のご要望であります。これを踏まえて、主要国との間で制度や運用の調和を進めるとともに、特許審査ハイウェイの拡大に取り組んで参りました。新興国についても、しっかりした知財制度を確立して、それを適切に運用してほしいという要望がますます高まっております。そこで昨年はインドの特許意匠商標総局、そしてタイの知的財産局の新人の特許審査官の研修に、日本の特許庁から講師として審査官を派遣いたしました。新興国・途上国から、職員の方々の受け入れも行いました。さらに、初めての試みになりますけれども、日



本で登録された特許権について、海外での権利化をスピードアップし、そして海外の特許庁での権利付与までの手続き負担を軽くするために、特許の付与円滑化に関する協力、CPGをカンボジア、ラオスとの間で開始したところでございます。

3つ目に、地域の中小企業の知財活動支援でございます。昨年9月の産構審での議論を経まして、基本方針となる地域知財活性化行動計画を取りまとめました。この計画に基づきまして、特許庁が全国47都道府県に設置しております知財総合支援窓口、これを中心としまして、それぞれ中小企業の実情に応じて、きめ細かくご支援するということをやってまいります。そして中小企業も海外で知財紛争に巻き込まれる懸念があります。そこで海外知財訴訟費用保険制度を創設しまして、中小企業の掛け金補助を始めました。今月末には大阪市内にINPITの近畿統括本部を設置いたします。これは、専門家による指導・助言だけではなく、出張面接審査、あるいはテレビ面接審査も行います。そして地域の他の機関も連携していただいて、関西の企業が知財を活用し、イノベーションを生み出すことを総合的に支援する機能になります。ある意味特許庁が、従来の出願から権利の取得というところを支えるだけではなくて、いかに権利をイノベーションに繋げていくかというところまで含めてサポートをする、新しい広がりや、

この場所で実験的にやっていきたいと思っております。

最後になりますけれども、特技懇が89名の新入会員を迎えました。大変嬉しいことでございます。先日、特許庁審査官の昼休み勉強会が、あのNHKの「サラメシ」で放映されました。審査官たちが昼休みに薄暗い会議室に集まって、最新の技術動向のビデオを見ながらお弁当を食べ、和気あいあいと議論をしているわけでありまして。高い志を持って、そして最先端の技術に飽くなき関心を持って勉強しながら日々の仕事に取り組む、そういう特許庁の職員の皆様のお姿を拝見しまして、私は着任早々でございましたけれども、大変感銘を受けました。そしてその反響が大きくて、「テレビを見たぞ」という声をたくさんいただきまして、非常に誇らしく思いました。特許庁は素晴らしい職場であります。新人の皆様も全員が「サラメシ」に出演できるくらい、しっかり自己研鑽に励んでいただければと思います。

このように盛大な会合を準備し、円滑に運営していただいている、特技懇の役員の皆様に改めて感謝を申し上げたいと思っております。審査官、審判官の研鑽の場であるとともに、知的財産に関わる皆様との交流の場でもあるこの特技懇が、今後もますます発展していくことを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

